

勝連城

中城城

浦添城

首里城

国指定史跡

島添大里グスク

Shimashi Ozato Gusuku Ruins



島添大里グスクミニガイド

Guide to Shimashi Ozato Gusuku Ruins

※'Gusuku' means Castle

島添大里グスク

Shimashi Ozato Gusuku Ruins

島添大里グスクは、いつだれによって築かれたのかには諸説あり、島添大里グスク以前の城とされるギリムイグスクの按司であった玉村按司であるとか、その後の島添大里按司であるとかいわれていますが、はっきりとはしていません。

三山時代には南山の東側(東四間切:大里・佐敷・玉城・知念・与那原)を支配下に置くほどの大きな勢力(一説には南山王とされている)を有した島添大里按司が居城し、中国や日本と貿易を行ない、「下の世の主」と称していました。しかし、佐敷一帯で勢力を拡大しつつあった佐敷小按司尚巴志によって、東四間切を支配していた島添大里グスクは滅ぼされ、その後は三山統一の拠点として使用され、首里グスクへ移った後は第一尚氏の支城となり、それを示すものとして尚泰久王によって造られた「大里城」銘の「雲板」が残っています。



大里城雲板



島添大里グスク全景

城の構造と発掘の成果

The Structure of the Gusuku and the Excavation Findings

グスクの規模は東西200m、南北100m、面積20,000m²以上に達し、三山時代の主要なグスクの中でも大きく、島尻地域では1・2を争う規模を持ちます。

北側崖を背にして一段高い所に一の郭があり、そこから放射状に三方へと広がっています。一の郭内には正殿が確認されており、ここから柱を支える礎石が数箇所からみつかっており、そこから正殿の規模が22m×13m程になることが分かっています。さらに、正殿部分は基壇によって一段高く造られているほか、数度の改築が行われていたことが分かっています。正殿の南側、基壇手前の一段低い箇所が御庭であったと考えられています。また、城内には一の郭を囲む城壁のほか、数箇所に城壁が残っており、さらに発掘調査によって、採石を逃れた城壁の基礎部分が地中より確認されています。

出土遺物には、土器やカミヤキ・中国産陶磁器・東南アジア産陶磁器・日本産陶磁器・鉄器・石器・装飾品・古銭・自然遺物など多くの文物がみられ、その繁栄ぶりが窺えます。



写真(城壁・検出遺構)

周辺遺跡

Surrounding Ruins

ミーグスク

Me gusuku

島添大里グスクの物見台として使用されたとされ、当地からは中城湾を中心とした周辺地域(グスク)が遠望でき、その監視を行っていたほか、中国などとの貿易を行っていた際に按司自らが歓送迎を行っていたといわれています。



ミーグスク(写真)

ギリムイグスク

Girimui gusuku

島添大里グスク以前の居城といわれており、その後は島添大里グスクの西側の物見台として、その監視にあっていたと考えられます。グスクの東側(後側)は島添大里グスクへと延びる丘陵が窪地で分断されています。



ギリムイグスク(写真)

真手川原遺跡

Mategabaru Ruins

島添大里グスク東側迫地に形成された生産遺跡です。グスク時代から現代に至るまで農地として使用されており、西原村に住む人々の生活の糧を生産していました。



真手川原遺跡(写真)

チチンガー

Chichingar

島添大里グスクの城外に隣接する場所にあり、湧水地まで下りていく降り井のタイプです。43段の石段が取り付けられています。



チチンガー(写真)

西原村

Nishihara-mura

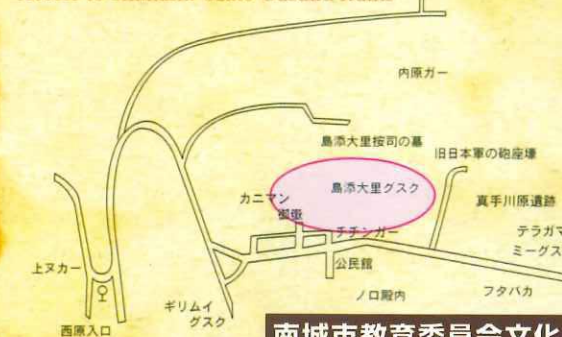
17世紀頃に基盤目型集落として発展しており、当時は「城村」と呼ばれていた。グスク時代当時も集落が広がっていたと考えられる。



新垣家の石積(写真)

島添大里グスクの案内

Access to Shimashi Ozato Gusuku Ruins



南城市教育委員会文化課
沖縄県南城市佐敷字新里1870番地
TEL098-917-5374 FAX098-917-5436